令和６年能登半島地震 災害対策ニュース

危機的な人員不足　３桁超も

再就労や名簿登録者へ改めて声掛けを

各県連・組合へ追加就労にご協力いただき、一定の対応を図ってきましたが、４月中旬以降、慢性的な就労者不足に陥っています。中でも、各棟のスロープ設置が石川県により急遽決定され、当初想定していた以上の大工が必要となり、５月以降は特に危機的な状況です。この状況が改善されず、引き渡しが大幅に遅れるようなことになった場合、これまで積み重ねてきた全木協の信用が失墜するだけでなく、労働者供給事業の今後の展開にも悪影響を及ぼしかねません。

そこで、①今回就労され、既に地元に戻られた方への再度のお願い、②災害協定締結に基づき平時から名簿化されている方への再度の呼びかけなど、ありとあらゆる手を尽くして対応いただきますよう、格段のご理解とご協力をよろしくお願いします。

※詳しい内容については全建総連特発第64-106号（4月24日付）をご確認ください。

	5/1～4	6～11	13～18	20～25	27～6/1	6/3～8	10～15
必要数	275	290	300	280	265	150	150
確保数	230	240	225	150	35	0	0
不足数	－45	－50	－75	－130	－230	－150	－150

協力的な関係築きミス防止

同郷仲間で息を合わせて造作～滋賀～

４月 21 日の輪島市南志見多目的グラウンド仮設団地には、日曜日にも関わらず駆けつけた仲間たちは、100戸（27棟）の仕上げに向けて、玄関スロープの製作や造作に取り組んでいました。

造作に取り掛かる大工の一人、滋賀建築の成宮剛さん（47）は今回初めて応急仮設木造住宅建設に携わり、全国の大工と一緒に仕事と交流ができることは本当に良いことだと話してくれます。

４月１日から従事し始めて約３週間が経ち、仕事の効率を上げるには、現場に集まる見知らぬ間柄だからこそ、人とのコミュニケーションが大事であることを実感し、積極的に挨拶や会話を交わして、お互いの息を合わせるように心がけています。特に、造作では大

「全国の大工と交流できることは良いこと」と話す
成宮さん（左）と同郷の冨江さん（右）

工の他に専門工事業者も現場の出入りが活発になるため、声がけによって協力的な関係をつくることは、事故や作業ミスを防ぐことにつながるので大切なことだと言います。

成宮さんは CCUS のゴールドを保有しており、従事する日は就労履歴をしっかりと蓄積しています。同じく、５日から共に従事する滋賀建築の冨江弘志さん(53)とは同郷で、息を合わせながら仕上げに取り組んでくれました。

応急仮設の大工工事では終盤のスロープ制作や造作まで到達(南志見)

全木協の受注戸数は全体の１割強に

能登半島に 5382 戸の仮設供給予定

仮設の完成まで皆さんのご協力をお願いします

災害救助法が適用された場合に、災害のため住家に被害を受けた被災者のうち、自らの資力では住宅を確保することができない者に対し、プレハブ住宅等を建設し一時的な居住の安定を図る応急仮設住宅が建設されています。全木協では、木造の応急仮設住宅（応急仮設木造住宅）を手掛け、８団地 551 戸（４月 23 日時点）の建設に向けて取り組みを進め、全建総連は労働者供給事業で大工職種の就労者を供給しています。

石川県はその仕様や目的ごとに、①従来型応急仮設住宅（長屋型のプレハブや移動式等)、②まちづくり型応急仮設住宅（木造)、③ふるさと回帰型応急仮設住宅（木造）の３つに分類し、各事業者に発注、合計 5382 戸の供与を予定しています。全木協では、②まちづくり型応急仮設住宅として、全体の１割強の仮設住宅を手掛け、応急仮設住宅としての期間（２年間）を終えた後、災害公営住宅に転用されることを前提に、くい打ちではなく、ベタ基礎で施工し長期間の居住に耐えうる仕様になっています。

現在も避難所で生活をする方は、3351 人（４月９日時点・内閣府)、ホテルや旅館等の２次避難所には 3312 人（４月２日時点・内閣府）となるなど、今もなお多くの方が厳しい環境での生活を余儀なくされています。

こうした方々に一刻も早く住居を提供するためにも、南志見グラウンド仮設団地を皮切りに、５月下旬、６月下旬の完成を目指して全木協として奮闘していきます。